

産科医等確保支援事業補助金資料作成について

・水色のセルには計算式を入力していますので、直接入力で値を入れないようにしてください

・黄色のセルに、値や文字を入力してください。

※各ページのページ設定でセルの色は印刷されないようにしています。
ページレイアウト>余白>シート(のタブ)>白黒印刷(にチェック)

実績報告時

・様式2-3を作成ください。

・続いて様式2-3と合計数が一致するように、様式2-1を作成ください。
様式2-1を作成いただければ、様式2-2は自動で作成されるようになっています。(値が反映されます。)

※もし寄付金その他の収入がある場合、2-2に記入ください。

産科医等確保支援事業実績報告書

書類の内容に答えられる方を記載
※書類に不備があった場合に連

日中に連絡のつくものを記載すること
※書類に不備があった場合、連絡させていただきます

施 設 名	医療法人社団〇〇会 〇〇病院
開 設 主 体	医療法人社団〇〇会
所 在 地	〇〇市〇〇区〇〇町〇-〇-〇
担 当 者	兵庫 太郎
所 属	事務局総務課
電 話	000-000-0000 (内線0000)
FAX	000-000-0000
メー ル	〇〇〇@△△.◇◇. ■■

1 産科医等確保支援事業

一般的な分娩費用 (円)	分娩取扱の別	分娩手当等支給対象職種	分娩取扱件数 (件) a	1 分娩あたり単価 (円) b	分娩手当支給総額 (円) a*b
540,000	正常分娩	産科医 (常勤)	100	10,000	1,000,000
	正常分娩	助産師 (常勤)	100	5,000	500,000
	帝王切開	産科医 (非常勤)	20	20,000	400,000
	帝王切開	助産師 (常勤)	20	5,000	100,000
分娩手当支給額総額 計					※様式2-2①欄へ 2,000,000
分娩手当支給対象分娩取扱数 (実数)					※様式2-2②欄へ 120

(注)

- 1 「一般的な分娩費用」欄には、正常分娩（1分娩あたり）で妊産婦が負担する、入院から退院までの一般的な分娩費用（分娩（管理・介助）料、入院費用、胎盤処理料、処置等の標準的な金額）として徴収する額を記載すること。（妊産婦が任意で選択できる、特別料理等費用は除く）
- 2 「分娩取扱の別」欄には、正常分娩、帝王切開等を記載すること。また、時間内・外で分娩手当の取扱が異なる場合は、これに則して区別して記載すること。
- 3 「分娩手当等支給対象職種」欄には、産科医、助産師など、分娩手当の支給対象者に応じ、区分して記載すること。
- 4 「分娩取扱件数」欄には、4.1～3.31までの間で、それぞれの分娩手当の支給対象件数を記載すること。
- 5 「1分娩あたり単価」欄には、分娩手当の支給単価を記載すること。正常分娩と異常分娩で単価が変わる場合は、全て記載すること。なお記載単価を示す、就業規則及びこれに類するもの（雇用契約等）を添付資料として提出すること。
- 6 「分娩手当支給対象分娩取扱数」欄には、分娩手当の対象となった分娩実件数を記載すること。1回の分娩を複数の医療従事者で取り扱った場合でも、1件として計上すること。双子の場合は2件で計上して差し支えない。

※1 「分娩取扱件数 (件) (a)」欄の合計(240)ではなく、
実際の取扱件数 (120) を記載すること。
※2 様式2-3「分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)」欄
の合計と一致すること。

産科医等確保支援事業所要額精算書

施設名を記載

施設名： 医療法人社団〇〇会 〇〇病院

(単位:円)

施設名 (事業名)	総事業費 (A)	寄付金 その他の 収入額 (B)	差引額 (A) - (B) (C)	対象経費の 実支出額 (D)	基準額 (E)	選定額 (D)、(E)のいずれ か少ない方の額 (F)	補助基本額 (C)、(F)のいずれ か少ない方の額 (G)	補助基本 所要額 (G) × 補助率1/5 (H)	補助所要額 (H) の千円未満切 捨 (I)	補助交付 決定額 (J)	補助受入 予定額 (I)、(J)のいずれ か少ない方の額 (K)	差引 過不足額 (J) - (K) (L)
産科医等確保支援事業	2,000,000		2,000,000	2,000,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	240,000	240,000	220,000	220,000	0
小計 (③)	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	240,000	240,000	220,000	220,000	0

下記① × 1,000
※千円未満の端数がある場

無い場合は"0"

下記② × 10,000を記載

◎様式 2 - 1 から転記

分娩手当支給総額の計(円) ①	2,000,000	① : 上記 (A) 、 (D) 欄
分娩手当支給対象分娩取扱数(実数) ②	120	② × 10,000 : 上記 (E) 欄

分娩手当支給実績一覧

記入例

【例】兵庫〇〇病院において、以下のとおり産科医・助産師が勤務 (表1)

分娩手当等 支給対象職種	常勤/ 非常勤	分娩手当 あり/なし	正常分娩	正常分娩 手当	帝王切開	帝王切開 手当	備考
産科医A	常勤	あり	取扱	10,000	-	-	
産科医B	常勤	なし	-	-	-	-	分娩手当なし→総勤務人数にのみ算入
産科医C	非常勤	あり	-	-	取扱	20,000	
助産師a	常勤	あり	取扱	5,000	取扱	5,000	
助産師b	非常勤	なし	-	-	-	-	分娩取扱なし→総勤務人数にのみ算入

【例】の設定を、様式2-3にあてはめる際の考え方

(表2)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)		10	7	12	8	11	13	8	8	11	9	11	12	120
内訳	正常分娩	7	5	11	7	10	11	6	7	10	6	9	11	100
	帝王切開	3	2	1	1	1	2	2	1	1	3	2	1	20

様式2-1、「分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)」と一致

施設名： < 施設名を記入ください >

(人、円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)		10	7	12	8	11	13	8	8	11	9	11	12	120	
産科医	常勤	勤務人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
		うち分娩手当支給人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延べ支給人数(件数)	7	5	11	7	10	11	6	7	10	6	9	11	100
		分娩手当支給額	70,000	50,000	110,000	70,000	100,000	110,000	60,000	70,000	100,000	60,000	90,000	110,000	1,000,000
	非常勤	勤務人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		うち分娩手当支給人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延べ支給人数(件数)	3	2	1	1	1	2	2	1	3	2	1	1	20
		分娩手当支給額	60,000	40,000	20,000	20,000	20,000	40,000	40,000	20,000	20,000	60,000	40,000	20,000	400,000
助産師	常勤	勤務人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		うち分娩手当支給人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延べ支給人数(件数)	10	7	12	8	11	13	8	8	11	9	11	12	120
		分娩手当支給額	50,000	35,000	60,000	40,000	55,000	65,000	40,000	40,000	55,000	45,000	55,000	60,000	600,000
	非常勤	勤務人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		うち分娩手当支給人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延べ支給人数(件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		分娩手当支給額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
分娩手当支給額 合計														2,000,000	

表2「分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)」と一致

常勤の産科医の人数(産科医A、B)

常勤産科医で分娩手当を支給する人数(産科医A)

産科医Aの正常分娩取扱数(表2)。

産科医Aの分娩手当単価(10,000円)×延べ支給人数(件数)

非常勤の産科医の人数(産科医C)

非常勤産科医で分娩手当を支給する人数(産科医C)

産科医Cの帝王切開取扱数(表2)

産科医Cの分娩手当単価(20,000円)×延べ支給人数(件数)

常勤の助産師の人数(助産師a)

常勤助産師で分娩手当を支給する人数(助産師a)

助産師aの正常分娩・帝王切開取扱数(表2)

助産師aの分娩手当単価(5,000円)×延べ支給人数(件数)

非常勤の助産師の人数(助産師b)

産科医・助産師の分娩手当の支給額の合計

様式2-1「分娩手当支給額総額 計」欄と一致すること。

【記載上の注意】

- 「分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)」は、分娩手当を支給した分娩取扱数のみを計上し、各月の合計は様式2-1「分娩手当支給対象分娩取扱数(実数)」と一致すること。
- 「勤務人数」は、施設で産科医・助産師として勤務する人数(総数)を記載すること。「うち分娩手当支給人数」は、「総勤務人数」のうち実際に分娩手当を支給した人数を記載すること。
- 「延べ支給人数」は、分娩手当を支給した延べ人数を記載すること。また、「分娩手当支給額」は、分娩手当を支払った月単位の総支給額(円)を記載すること。
- 「延べ支給人数(件数)」の合計は、様式2-1「30年度中の分娩取扱件数(件)a」の和と一致すること。
また、「分娩手当支給額 合計/千円(千円未満切捨)」は、様式2-1「分娩手当支給総額(円)」の計と一致すること。